

# 学びやの記憶

## 休・廃校を訪ねて

③

### 中枝小

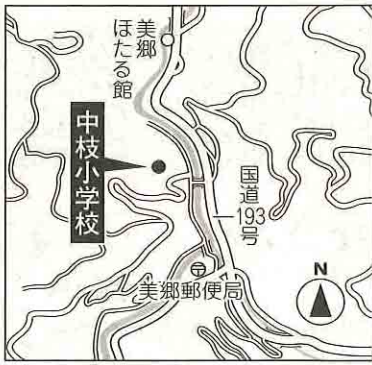
(吉野川市)

吉野川市美郷地区を流れる川田川。毎年五月末から一カ月ほど、夕闇に包まれた川べりに無数のホタルが飛び交い、幻想的な光の乱舞が見物客を

魅了する。美郷地区は一九七〇年、ホタルの生息地として国の天然記念物に指定された。そのきっかけをつくったのが、二年前に休校になった中枝小学校のホタル研究だ。六六年五月のある夜、中枝小の教師として宿直をしていた児童文学作家の原田一美さん(ハシモト)

市山川町川東Ⅱは、児童たちに誘われ近くの川田川へ。岸辺に着いた瞬間、目を疑うほどの光の群れに出くわした。「まるで光の吹雪だ」

あまりの数の多さに言葉が失う原田さんに、児童たちはかまわず問い掛ける。「先生どうしてホタルは光るん」「このホタルはなにホタルで」。翌日、生息



【上】40年余り前、中枝小でホタル研究に取り組んだ原田さん(左)と和泉さん【下】1965年(昭和40年)の旧校舎(同校115年史より)

# ホタル研究 自信得る



中枝小校章

年は三百二十六人が通っていた。児童数は少なくなかったものの、「山の子は控えめで消極的。研究を通して、自信と誇りを持たせてやりたかった」と原田さんは振り返る。

一八七九(明治十二)年に創立された中枝小の児童数のピークは、一九五九年の三百七十六人で、研究が始まった六六

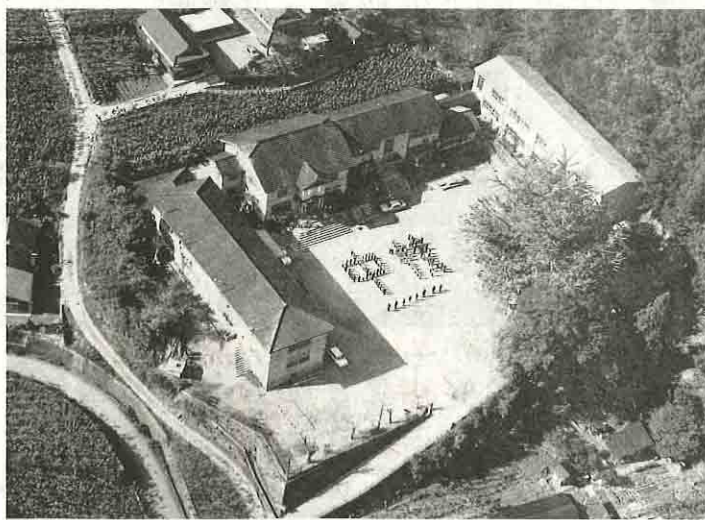
保健室の半分を仕切って研究室にし、卵の人工ふ化に挑戦。幼虫、さなぎ、成虫へと育て、ホタルは一生を通じて光ることを確かめた。

体験発表会では、特賞に輝いた。研究は後輩たちを引き継がれ、三年連続披露した真児童生徒科学

作詞・芳村勝重  
作曲・馬木芳雄

### 校 訓

よく学び  
よく励み  
よく鍛え  
よく



特賞を受賞した。児童たちの研究記録は、二〇〇〇年に開館した美郷ほたる館で展示されている。

ホタルは、消極的だった山の子どもたちを変えた。六七年に六年生だった和泉隆啓さん(五巴)美郷倉庫、林業Ⅱは「ホタルの研究で大きな自信を得た。小さな村の学校が、県で一番になったんですから」。

美郷地区では今、ほととぎすや高開の石積み観光など地域おこしが活発。その先頭に立っているのが、研究に携わった卒業生たちだ。母校の灯は消えても、ホタルにもなった自信と誇りはしっかりと受け継がれている。(毎週火曜日掲載)